



BEA WebLogic Integration™

**B2B Integration ログ
へのメッセージの
書き込み**

著作権

Copyright © 2002, BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA Systems, Inc. からの書面による事前の同意なしに、複写、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Platform、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、BEA WebLogic Workshop および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社が著作権を有します。

BEA Integration ログへのメッセージの書き込み

パート番号	日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2002年6月	7.0

目次

このマニュアルの内容

対象読者.....	v
e-docs Web サイト.....	v
このマニュアルの印刷方法.....	v
サポート情報.....	vi
表記規則.....	vii

1. ログへの書き込み

ログについて.....	1-1
ログ ファイル.....	1-1
Logging API.....	1-2
重要度レベル.....	1-2
ログへのメッセージの書き込み.....	1-3
logging パッケージのインポート.....	1-3
INFO 重要度レベルのログ メッセージの書き込み.....	1-3
特定の重要度レベルを持つメッセージの書き込み.....	1-4

索引



このマニュアルの内容

このマニュアルでは、B2B Integration ログにメッセージを書き込む方法について説明します。

対象読者

このマニュアルは主に、次のユーザを対象としています。

- WebLogic Integration Studio を使用して WebLogic Integration 環境に統合できるワークフローを設計するビジネスプロセス設計者
- WebLogic Integration 環境でビジネス メッセージの交換を管理したり、実行時の統計をモニタしたりするための Java アプリケーションを記述するアプリケーション開発者
- WebLogic Integration アプリケーションを設定および管理するシステム管理者

e-docs Web サイト

WebLogic Integration 製品のマニュアルは、BEA の e-docs Web サイト (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html>) で入手できます。

このマニュアルの印刷方法

Web ブラウザの [ファイル | 印刷] オプションを使用すると、Web ブラウザからこのマニュアルを一度に 1 ファイルずつ印刷できます。

このマニュアルの PDF 版は、**WebLogic Integration** (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html>) Web サイトで入手できます。PDF を **Adobe Acrobat Reader** で開くと、マニュアルの全体（または一部分）を書籍の形式で印刷できます。PDF を表示するには、**WebLogic Integration** ドキュメントのホーム ページを開き、[PDF 版] ボタンをクリックして、印刷するマニュアルを選択します。

Adobe Acrobat Reader がない場合は、**Adobe** の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/>) で無料で入手できます。

サポート情報

WebLogic Integration のドキュメントに関するユーザからのフィードバックは弊社にとって非常に重要です。質問や意見などがあれば、電子メールで docsupport-jp@beasys.com までお送りください。寄せられた意見については、**WebLogic Integration** のドキュメントを作成および改訂する **BEA** の専門の担当者が直に目を通します。

電子メールのメッセージには、**WebLogic Integration** リリース 7.0 のドキュメントをご使用の旨をお書き添えください。

本バージョンの **WebLogic Integration** について不明な点がある場合、または **WebLogic Integration** のインストールおよび動作に問題がある場合は、**BEA WebSUPPORT** (<http://websupport.bea.com/custsupp>) を通じて **BEA** カスタマサポートまでお問い合わせください。カスタマサポートへの連絡方法については、製品パッケージに同梱されているカスタマサポート カードにも記載されています。

カスタマサポートでは以下の情報をお尋ねしますので、お問い合わせの際はあらかじめご用意ください。

- お名前、電子メールアドレス、電話番号、ファクス番号
- 会社の名前と住所
- お使いの機種とコード番号
- 製品の名前とバージョン
- 問題の状況と表示されるエラー メッセージの内容

表記規則

このマニュアルでは、全体を通して以下の表記規則が使用されています。

表記法	適用
[Ctrl] + [Tab]	複数のキーを同時に押すことを示す。
<i>斜体</i>	強調または書籍のタイトルを示す。
等幅テキスト	コード サンプル、コマンドとそのオプション、データ構造体とそのメンバー、データ型、ディレクトリ、およびファイル名とその拡張子を示す。等幅テキストはキーボードから入力するテキストも示す。 <i>例</i> <pre>#include <iostream.h> void main () the pointer psz chmod u+w * \tux\data\ap .doc tux.doc BITMAP float</pre>
<i>斜体の等幅テキスト</i>	コード内の変数を示す。 <i>例</i> <pre>String <i>expr</i></pre>
すべて大文字のテキスト	デバイス名、環境変数、および論理演算子を示す。 <i>例</i> <pre>LPT1 SIGNON OR</pre>
{ }	構文の中で複数の選択肢を示す。実際には、この括弧は入力しない。

表記法	適用
[]	<p>構文の中で任意指定の項目を示す。実際には、この括弧は入力しない。</p> <p><i>例</i></p> <pre>buildobjclient [-v] [-o name] [-f file-list]...[-l file-list]...</pre>
	<p>構文の中で相互に排他的な選択肢を区切る。実際には、この記号は入力しない。</p>
...	<p>コマンドラインで以下のいずれかを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 引数を複数回繰り返すことができる ■ 任意指定の引数が省略されている ■ パラメータや値などの情報を追加入力できる <p>実際には、この省略記号は入力しない。</p> <p><i>例</i></p> <pre>buildobjclient [-v] [-o name] [-f file-list]...[-l file-list]...</pre>
.	<p>コード サンプルまたは構文で項目が省略されていることを示す。実際には、この省略記号は入力しない。</p>

1 ログへの書き込み

以下の節では、**B2B Integration** ログにメッセージを書き込む方法について説明します。

- ログについて
- ログへのメッセージの書き込み

ログについて

B2B エンジンでは、**Logging API** を使用して、エラー、警告、および情報メッセージをログ ファイルに書き込みます。

ログ ファイル

ログ メッセージは以下の場所に書き込まれます。

- **WebLogic Integration** システム ログ ファイル (`b2b.log`) および **WebLogic Integration B2B Console** (実行中の場合)
- **WebLogic Server** ログ ファイル (`weblogic.log`) および **WebLogic Server Administration Console** (実行中の場合)

`b2b.log` システム ログ ファイルは、**WebLogic Integration** の起動時に自動的に作成されます。このファイルのサイズは **1MB** に制限されています。この最大値を超えると、ファイルは数字の付いた名前 (`b2b1.log` など) に変更され、新しい空のファイルが作成されます。

Logging API

`com.bea.eci.logging` パッケージには Logging API が含まれます。Logging API は、次の表に示すクラスで構成されます。

表 1-1 Logging API

名前	説明
Log	ログ メッセージの重要度レベルを定義する。
UserLog	ユーザ ログを表す。ユーザにログへのアクセスを提供する。ユーザ ログは、システム ログ内で、ユーザ ログ出力ストリーム (<user> タグを持つ) として定義される。

これらのクラスの詳細については、「*BEA WebLogic Integration Javadoc*」を参照してください。

重要度レベル

Log クラスでは、次の表に示す重要度レベルを定義します。

表 1-2 Log クラスで定義される重要度レベル

レベル	重要度	発生したイベントの内容
1	FATAL	致命的なエラー。システム コンポーネントでは、検出された例外による異常な障害が発生した。
2	ERROR	重要なエラー。システムの安定性に影響した。
3	WARNING	それほど重要ではない例外。通常の処理やシステムの安定性には影響しなかった。
4	INFO	例外や異常はなかった。例外の状況ではなく、通常の処理を報告するメッセージのみを示す。そのようなメッセージの例として、WebLogic Integration B2B Console の正常な起動のロギングがある。

ログへのメッセージの書き込み

WebLogic Integration アプリケーションでは、UserLog クラスの log メソッドを使用して、メッセージをログに書き込むことができます。log メソッドはユーザログにメッセージを記録し、以下のいずれかを行います。

- 重要度のレベル（FATAL、ERROR、WARNING、または INFO）を指定します。
- 重要度のレベルを指定しません。この場合、デフォルトは INFO になります。

また、アプリケーションでは UserLog.out を使用して、ユーザログへの出力ストリームにアクセスできます。

logging パッケージのインポート

ログに書き込むには、次のリストで示すように、WebLogic Integration アプリケーションで com.bea.eci.logging パッケージをインポートする必要があります。

コード リスト 1-1 com.bea.eci.logging パッケージのインポート

```
import com.bea.eci.logging.*;
```

INFO 重要度レベルのログ メッセージの書き込み

INFO 重要度レベルのログメッセージを書き込むには、アプリケーションで次のような log メソッドを使用できます。

```
static void log(java.lang.String userMsg)
```

上の行の userMsg は、ログに書き込まれるメッセージテキストです。

この log メソッドを使用する場合、ログの重要度はデフォルトで INFO に設定されます。次のリストでは、INFO 重要度レベルのログ メッセージを書き込む方法を示します。

コード リスト 1-2 INFO メッセージのログへの書き込み

```
private static void debug(String msg){
    if (DEBUG)
        UserLog.log("***Partner1Servlet:"+msg);
}
```

特定の重要度レベルを持つメッセージの書き込み

特定の重要度レベルを持つログ メッセージを書き込むには、アプリケーションで次のような log メソッドを使用します。

```
static void log(int severity, java.lang.String userMsg)
```

上の行の説明は以下のとおりです。

- severity は、重要度レベル (FATAL、ERROR、WARNING、または INFO) を表します。
- userMsg は、ログに書き込まれるメッセージテキストです。

次のリストでは、WARNING 重要度レベルのログ メッセージを書き込む方法を示します。

コード リスト 1-3 WARNING メッセージのログへの書き込み

```
private static void debug(String msg){
    if (DEBUG)
        UserLog.log(Log.WARNING, msg);
}

try {
} catch (Exception e){
    debug("Partner1 exception errors");
    e.printStackTrace(UserLog.out);
}
```

索引

A

API、ロギング 1-2

C

com.bea.eci.logging パッケージ 1-2

E

ERROR 重要度レベル 1-2, 1-4

F

FATAL 重要度レベル 1-2, 1-4

I

INFO 重要度レベル 1-2, 1-3

J

Java クラス
Log 1-2
UserLog 1-2

L

Logging API 1-2
Log クラス 1-2

U

UserLog クラス 1-2

W

WARNING 重要度レベル 1-2, 1-4

い

印刷、製品のマニュアル v

え

エラー レベル 1-2

か

カスタマ サポート情報 vi

し

重要度レベル 1-2

た

対象読者 v

て

テクニカル サポート vi

は

パッケージ、com.com.bea.eci.logging
1-2
パッケージのインポート 1-3

ま

マニュアル入手先 v

ろ

ログ ファイル 1-1

